

学科名 近代建築の遺産を訪ねて
学習テーマ 京大吉田キャンパスの近代建築
実施日 2026年4月22日(水)10:00～

京都大学のシンボルとなる時計台前に集合
薄曇り、爽やかな風が感じられ散策には最適の天候でした
各班に別れガイドさんの説明を聞きながらキャンパス内を回りました



京都大学時計台(1925年建設)



時計台の前には大きなクスノキ
このクスノキは京大のエンブレムにも描かれている
時計台はゼツェッション様式(19世紀末のドイツ語圏で、歴史主義的な装飾様式から分離し、生活や機能に根ざした新しい総合芸術を目指した建築・美術の様式)の格調高い風格
時計はドイツのシーメンス製

法経済部本館(1993年建設)

ネオゴシック様式(中世ゴシック建築の尖頭アーチやランセット窓、垂直性の強調などを19世紀以降に復興・再解釈した建築様式で、教会や大学などの公共建築に多く用いられた点の特徴)
外壁はスクラッチタイル貼り



旧石油化学教室本館(1889年建設)



尊攘堂(1903年建設)
登録有形文化財



土木工学教室本館(1917年建設)



文学部陳列館(1914年建設)



ネオバロック様式(17~18世紀のバロック建築・装飾を19~20世紀に歴史主義的に復興・再解釈した様式で、曲線的で華やかな外観や豊かな装飾性が特徴)
車寄せのアイアン飾りのデザインが優雅

湯川記念館(1952年建設)



文学部東館(1936年建設)



旧演習林事務室館(1931年建設)



登録有形文化財

人文科学研究所(1930年建設)



少し離れたところにあるが北白川の民家の中にある。外観はインパクトがありここだけが別世界のようである。スパニッシュ・ロマネスク様式のこの建物は柱の模様パターンが全部異なっている。窓には小さな色とりどりのガラスが連なるステンドグラスもありまた壁には日時計がつけられている。日本近代建築の最高傑作の一つとしても有名である。登録有形文化財。

京都大学は歴史的建造物の宝庫である。大正時代の建築の特徴を色濃く残す「文学部陳列館」や、明治時代に建てられた蔵のような外観の「尊攘堂」など明治時代から昭和時代までの様々な建物が混在している。また建築様式もいろいろな様式が入り混じり面白い。吉田キャンパス界隈には多くの登録有形文化財を有する。京都の歴史ある寺院や京町屋などの和風建築もいいが、時代や和洋入り混じった建築も面白い。